



被爆家族継承講話について



もうすぐ長崎の暑い夏、8月9日「長崎平和の日」がやってきます。今年は被爆して77周年になります。被爆当時の記憶が残る3～4才だったとしても80才を超えることになります。例年は被爆者の方に直接来ていただいて話をうかがっていましたが、高齢化が進み、被爆体験をされた方がどんどん少なくなっています。今年度は「継承」ということを考えていくこともあって、「被爆家族継承」講話をお願いしました。来ていただいたのは「長崎の鐘」の本を書いた有名な永井隆博士のお孫さん、永井徳三郎さんでした。怒りの広島、祈りの長崎と言われていますが、長崎の平和に対するアプローチ、スタンスのおおもととなったのが永井隆博士です。孫の徳三郎さんは、現在永井隆記念館の館長で、元新聞記者のお父様の誠一（まこと）さんが初代館長となります。縁あって徳三郎さんとは、私が城山小学校勤務時に大変お世話になり、それ以来親交を深めている間柄でもあります。徳三郎さんは、被爆者ではない自分が平和に関することで何ができるだろうと考え、「被爆家族継承」を引き受けたそうです。私は永井隆博士について、当時担任していた子どもたちと一緒に学んだのですが、一番感銘を受けたのは、被爆前は普通の人だった博士が、被爆という大きな出来事を通して、自らの使命として、誰もができないような平和希求の想いを、余命いくばくもない体で、実際に行動にうつしていったということです。また、「『祈りの長崎』という平和へのアプローチが、今の長崎を創っていったのだなあ。そんなやさしさ溢れる長崎に生まれてよかったなあ。」と心から実感しています。少しでも「平和への思いを継承できる長崎人」でありたいと、また、子どもたちにはあってほしいと願っています。

（※ 6月1日に行われた対話型平和学習でした。ご報告が遅くなりすみませんでした。）

長崎の鐘

作詞 サトウハチロー
作曲 古関裕而

こよなく晴れた青空に
悲しと思う せつなさよ
うねりの波の 人の世に
はかなく生きる 野の花よ
なぐさめ はげまし 長崎の
ああ 長崎の鐘が鳴る

召されて妻は 天国へ
別れてひとり 旅立ちぬ
かたみに残る ロザリオの
鎖に 白き わが涙
なぐさめ はげまし 長崎の
ああ 長崎の鐘がなる

こころの罪を うちあけて
更け行く夜の 月ずみぬ
貧しき家の 柱にも
気高く白き マリア様
なぐさめ はげまし 長崎の
ああ 長崎の鐘がなる



宮原のつぶやき



この2枚の写真をはじめとした数点の資料を、当時永井隆博士を支えた看護師長さんだった故久松シノノさんから、「子どもたちとともに平和に関わる学びをしてくださって嬉しい。」と優しい笑顔でいただいたことをまるで最近のことのように思い出します。たまたま城山小に赴任したことがきっかけで、長崎の平和の継承について真剣に考えるきっかけをいただいたことに本当に感謝していますし、自分にできることは子どもたちと平和について考えていくことだと思うので、長崎だけでなく、広島平和祈念館、沖縄平和の礎（いしじ）、ひめゆりの塔、知覧特攻平和会館、太刀洗平和記念館を訪れて、戦争の悲惨さ、平和の大切さをどう伝えるかということを考えてきました。今年はどう伝えようかと今から構想中です。